

国体参加競技 強化の方針・目標

2010. 6. 23 No.1

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国体での競技成績目標		
			種別	最高目標	最小目標
1	水泳	<p>(競泳) 底辺の拡大を考え、国体候補選手の強化はもちろん次世代のジュニアの強化も視野に入れ強化練習会など頻繁に実施している。お互いが刺激を受けやすくなるように工夫をする。このことによるモチベーションの向上、維持を目的にしている。 (水球) 基本的な泳力はもちろんのこと、戦術やメンタル面の向上のために年上の大学生などとの合宿を通してレベルアップを図ってきたい。 (飛込) 体幹のトレーニングを用いて、より安定した技術力の高い技の習得を目指し取り組むことが全国を視野に入れたトレーニングになってくる。技の正確性を向上させ、より高い難度で全国と戦えるよう強化してきたい。又、ジュニア層の強化も合わせて行ってきたい。</p>	成年男子	決勝進出者2名以上	決勝進出者1名
			成年女子		
			少年男子	競泳：決勝進出者3名以上、なおかつ優勝1種目、表彰台2種目	競泳：決勝進出者2名表彰台2種目
			少年女子	水球：得点獲得	水球：得点獲得
3	ヨット	<p>①男女総合優勝を最大目標とする。 ②チーム佐賀として、個の長所を結集し、チーム全体で共有し、チーム全体の向上に努め、個の欠点をチーム全体で補う。 ③国体佐賀代表選手が、ロールモデルとなり、社会に好影響を与えるよう努める。</p>	成年男子	シングルハンド級 5位以内 470級 3位以内 ウインドサーフィン級 8位以内	シングルハンド級 8位以内 470級 8位以内 ウインドサーフィン級 20位以内
			成年女子	シーホッパーSR級 6位以内 セーリングスピリット級 3位以内 ウインドサーフィン級 8位以内	シーホッパーSR級 8位以内 セーリングスピリット級 6位以内 ウインドサーフィン級 20位以内
			少年男子	シーホッパーSR級 1位 セーリングスピリット級 1位以内	シーホッパーSR級 5位 セーリングスピリット級 6位以内
			少年女子	シーホッパーSR級 1位 セーリングスピリット級 1位以内	シーホッパーSR級 5位 セーリングスピリット級 6位以内
4	陸上	<p>・将来的に競技力向上につながる小学生のタレント発掘のためのイベント開催。 ・成年層の薄い現状のなか、少年に頼りすぎるを得ないが中学生から高校生へのつなぎを一括したものにし、中学低学年→少年B→少年Aへと強化の連携を図り、単年度だけではなく継続的な競技得点2.0点獲得を目指し、協会一丸となった強化の推進。(練習会、県内外強化合宿の実施) ・大会派遣を含めた県外交流を積極的に行い、精神面の強化を図る。 ・少年男女の長距離陣に期待し、春季、夏季休業期間中を利用した集中した強化を行う。 ・即戦的に得点に結びつく選手や種目に対して最高の舞台でピークが来るようなサポート態勢の整備。 ・本国体でのふるさと選手の活用推進</p>	成年男子	400m 廣瀬 英行 (慶広義塾大 ふるさと) 5点	400m 廣瀬 英行 (慶広義塾大 ふるさと) 3点
			成年女子	1500m 陣内 綾子 (九電工 ふるさと) 5点 走幅跳 吉木 智美 (伊万里高校講師) 2点	1500m 陣内 綾子 (九電工 ふるさと) 3点 走幅跳 吉木 智美 (伊万里高校講師) 1点
			少年男子	A5000m 江頭 祐輔 (白石高校) 2点 Aハンマー投古竹 秀平 (唐津工業高校) 2点 B100m 福富 晃希 (佐賀工業高校) 2点 B3000m 小池 駿也 (白石高校) 2点 共800m 上妻 昇太 (鳥栖工業高校) 3点	A10000m 江頭 祐輔 (白石高校) 1点 Aハンマー投古竹 秀平 (唐津工業高校) 1点 B100m 福富 晃希 (佐賀工業高校) 1点 B3000m 小池 駿也 (白石高校) 1点 共800m 上妻 昇太 (鳥栖工業高校) 1点
			少年女子	A400m 森 鮎美 (佐賀北高校) 1点 A3000m共800m宮崎悠香(鹿島高校) 2点 B1500m 植松佳那子(西部中学校) 2点	A400m 森 鮎美 (佐賀北高校) 1点 A3000m共800m宮崎悠香(鹿島高校) 1点 B1500m 植松佳那子(西部中学校) 1点
5	サッカー	<p>本大会出場の可能性の最も高い少年の部の強化を協会で実施している。トップリーグ(高校3年主体のベスト8)に参加させ年間を通して強化をしていく。</p>	成年男子		本国体出場
			成年女子		本国体出場
			少年男子	本国体ベスト8	本国体出場
6	テニス	<p>すべての代表選手が県外からとなる可能性があり、その場合強化練習を組むことは難しいが、選手の環境整備、コンディション作り、メンタル面でのサポートに努めていく。又、代表になれなかった県内選手等についても、今後、実力の底上げを図るため、年間を通じて定期的に他県やジュニアとの強化練習に取り組んでいきたいと考えている。</p>	成年男子	全国制覇	本国体ベスト8
			成年女子	本国体ベスト8	九州ブロック突破
			少年男子	本国体ベスト8	本国体ベスト3.2
			少年女子	本国体ベスト8	本国体ベスト3.2
7	ホッケー	<p>強化の方針 ・他県との練習ゲーム ・人工芝での練習 ・成年男女(計画的な練習計画)</p>	成年男子	国体出場	ブロック予選突破
			成年女子	国体出場	ブロック予選突破
			少年男子	国体3位	ブロック予選突破(優勝)
			少年女子	国体出場	ブロック予選突破
9	バレー	<p>成年女子の久光製薬、佐賀エレクトロニクスは企業スポーツとして頑張ってもらおう。 少年男女は大会(春高バレー)の都合上、選抜チームではなく、単独チームとなる。</p>	成年男子	九州ブロック大会2勝	九州ブロック大会1勝
			成年女子	千葉国体優勝	千葉国体出場
			少年男子	千葉国体優勝	千葉国体出場
			少年女子	千葉国体ベスト4	千葉国体出場
10	体操	<p>○連休及び長期休日を利用し、計画的に強化練習と合宿を行い、国体位入賞を目指す。(成年男子)大学生を中心としたチームになるので、演技の続行力を中心に強化する。(成年女子)全種目安定したノーミスの演技力を目指して強化し国体優勝を目指す。(少年男子)基礎体力と続行力の向上に取り組み、国体上位を目指す。(少年女子)中学生中心のチームとなるため、美しい演技力と、メンタルトレーニングを実施し、来年度からの入賞に向けた強化を目指す。</p>	成年男子	団体8位入賞	国体出場
			成年女子	国体優勝	ブロック1位通過
			少年男子	団体8位入賞	国体出場
			少年女子	団体8位入賞	国体予選通過 (18位以内)
			新体操少女	優勝	
11	バスケット	<p>佐賀県はとにかく小さくフィジカルに弱いので、ディフェンス→速攻→ショットを連動作し、体力、技術を目一杯、試合で発揮しメンバー全員で走り勝つバスケットボールを目指す。</p>	成年男子	ブロック突破	予選リーグ1勝
			成年女子	ブロック突破	予選リーグ1勝
			少年男子	全国ベスト8入賞	全国1勝
			少年女子	ブロック1位通過	予選リーグ突破

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国体での競技成績目標		
			種別	最高目標	最小目標
14	ハンドボール	・トヨタ紡織九州を中心として、強化練習会等計画し、底上げを図る。・団体強化練習会を早期から実践し、人材発掘、スキル向上、戦術理解を目的とし強化を図る。・成年男子(トヨタ紡織)は本国体でも実績を残してきたが、成年女子、少年男子、少年女子についてはこしばらく本戦出場ができていない。ジュニア育成がうまくいっているので中学生までは全国的にレベルアップがきているが選手の県外流出もあり、高校のレベルが伸び悩んでいる。	成年男子	本国体優勝	本国体3位
			成年女子	本国体出場	九州ブロック大会ベスト4
			少年男子	本国体5位(ベスト8)	本国体出場
			少年女子	本国体3位(ベスト4)	本国体出場
15	自転車	高校2年生が主力のチームで、実力的には全国トップレベルの選手が2名いるので、さらにロード練習を中心に本国体での上積みができるよう努力させたい。	成年男子	6点	1点
			少年男子	15点	6点
16	ソフトテニス	昨年同様競技者・指導者育成プログラムを進め、各種別の強化を進行していく。成年男子の強化を最重要課題として本年も考え、選手選考前から指定選手を決定し、各種大会への参加を義務つけると同時に練習会を積極的に開き、参加させる。取組み2日目となる今年は、まずブロック大会順位上昇を目指す。成年女子についてはエース不在となる今年はふるさと選手力を借りることになるであろう。少年種別は近年入賞もない状態が続いている。我慢の年であることと思う。中高の連携を密にして見直しを持った(プログラムに沿った)強化を行いたい。	成年男子	ブロック2位 本国体出場	ブロック大会4位以内
			成年女子	本国体入賞	ブロック2位 本国体出場
			少年男子	本国体入賞	ブロック2位 本国体出場
			少年女子	本国体3位	本国体入賞
17	卓球	成年→男女ともに大学生が主力メンバーとなる可能性が高い。関東・関西の大学が多いので母体において日頃の練習で力をつけてもらいたいと考えている。県在住の成年においては、各地域の社会体育館において週2回程度の練習会を行う。少年→基本的には男子、敬徳・北陵、女子、清和・佐商においてそれぞれ母体で練習を行い、7月の国体予選後選手を集め合同練習会を数回にわたり行う。ジュニア→各種大会の上位選手を中・高校生と共に合同練習会を行う。	成年男子	本国体初戦突破	九州ブロック大会予選通過
			成年女子	本国体ベスト16	九州ブロック大会予選通過
			少年男子	本国体ベスト8	九州ブロック大会予選通過
			少年女子	本国体ベスト8	本国体ベスト16
18	軟式野球	軟式野球は、個々の能力だけではなく、チームとして戦略的に戦うことが重要であり、長期的な強化が必要になる。その強化を図るためには、期間や資金が必要であり、今年度も例年とおり選考会を行い優勝チームを中心としてチームを編成するが、補強すべき点があれば、他のチームより選手の補強を行い、選抜チームを編成したい。	成年男子	国体優勝	本国体出場
19	相撲	・国体強化選手による合同強化練習会(9回実施予定) ・他県との強化練習会の実施	成年男子	決勝トーナメント進出	団体予選1勝
			少年男子	決勝トーナメント進出	団体予選1勝
20	馬術	馬との信頼関係の構築、支持に対する従順な走行・回転等の練習の中から飛越時の障害に対するベストの踏み切りをmm単位に求め、競技会での実践練習を行い、九州ブロック大会、ゆめ半島千葉国体に最高のコンディションで望めるよう調整強化を行う。	成年男子	選手の育成・強化	
			少年男女	ブロック大会で高得点にて九州8県の上位入賞を果たし、3名の枠を早く確保できるかが鍵である。リレー競技2連覇・少年標準障害、スピード&ハンディネス3位以内・二段階障害トップスコア競技に2名の選手をエントリーできれば昨年度を超える得点確保は十分可能となる。	エントリーできた全種目において6位以内を目標に競技会に望む。
21	柔道	有望選手を県外に流出させることなく、目標に向かって中学、高校、社会人の指導者が連携を密にして実のある強化を行っていききたい。	成年男子	本国体ベスト4以上	本国体入賞
			成年女子	本国体入賞	本国体出場
			少年男子	本国体入賞	本国体出場
			少年女子	本国体入賞	本国体出場
22	ソフトボール	少年の部については、高体連と連携を図りながら強化したい。成年の部については、早期に選手選考を行い強化に努めたい。	成年男子	本国体優勝	本国体出場
			成年女子	本国体出場	九州ブロック1勝
			少年男子	本国体出場	九州ブロック1勝
			少年女子	本国体優勝	本国体出場
23	フェンシング	(1) 競技人口の少ないフェンシング競技では、組織体制の充実を図りながら競技の普及とともに選手の育成・強化を行っている状況である。とくに、少年男女の競技普及を目指し佐賀商業高等学校フェンシング部を軸に選手の育成・強化を図っているが、現実問題として選手層は少数精鋭的な状況で底辺の拡大に苦慮しており部員の確保が課題である。 (2) 各種別の強化方針 (成年男子) ・現役の大学生2選手を「ふるさと選手枠」に登録することにより、今年度の成年男子は戦力アップが図られ国体での上位進出が期待される。 (成年女子) ・昨年と同様に「ふるさと選手枠」の現役選手と県内で活動している卒業生のチーム構成で、九州ブロック予選の突破を目標に本国体への出場を目指す。 (少年男子) ・県内の強化練習会や県外交流試合を多く取り入れ、実践的な技術の習得を図ることにより、九州ブロック予選を突破し本国体の出場を確定させる。 (少年女子) ・少年女子は、最優先に部員の確保を図り安定した部活動の継続による選手強化育成を行う。	成年男子	決勝トーナメント進出2回戦進出(ベスト16)	本国体予選1回戦突破
			成年女子	本国体ベスト8入賞	ブロック予選会突破
			少年男子	本国体ベスト8入賞	ブロック予選会突破
			少年女子	ブロック予選突破	ブロック予選会突破
24	バドミントン	ここ数年成年に関しては、ふるさと選手の活用より地元の若い選手の育成に重点を置いて強化しており本年度においても同様である。しかし、即戦力のふるさと選手が活用できれば融合しながら強化につなげていきたい。少年に関しては、男女とも同一校による国体強化選手が予想されるので、チームワークをいかに核になるエースの育成を図り強化していきたい。女子は5/8 になるのでぜひとも本国体を逃さないようにしたい。	成年男子	本国体ベスト8	本国体初回戦突破
			成年女子	本国体ベスト8	本国体出場2/8
			少年男子	本国体ベスト8	本国体出場2/8
			少年女子	本国体ベスト8	本国体出場5/8

No.	競技	強化の方針	九州ブロック大会、本国体での競技成績目標		
			種別	最高目標	最小目標
26	ライフル	・今年の少年種目の選手は2年と1年しかいないため厳しい状況だが、順調に力をつけている。まずは、ブロック大会の通過と本国体での入賞を目標に強化していきたい。 ・50m射撃場が県内に無いため練習時間の確保に苦労している。最低週1回の練習はできるようにしているが、昨年並みの成績を維持するどころかブロック大会の通過も厳しい状況にある。当面は練習時間をできるだけ確保していきたい。 ・ピストル種目は世代交代を視野に入れながらの強化を考えなければならない。ピストル強化担当は優秀な選手を育成してきたが、次の世代の選手の育成にも着手しなければならない時期にさしかかってきた。弾薬をなるべく多く確保し、強化育成を図っていきたい。	成年男子	本国体4名入賞、競技得点20点獲得	本国体2名入賞、競技得点10点獲得
			成年女子	本国体2名入賞、競技得点15点獲得	本国体1名入賞、競技得点5点獲得
			少年男子	2名ブロック大会通過	本国体1名入賞、競技得点3点獲得
			少年女子	1名ブロック大会通過	本国体1名入賞、競技得点2点獲得
27	剣道	成年男女、少年男女合同を実施して、厳しい九州ブロックを突破すべく選手の育成強化を図り、選手としての使命感を持たせる。合同の強化合宿により指導者は勿論、選手が一丸となって目標達成に向け、意識の向上と、剣道連盟主導で強化を図る。	成年男子	本国体優勝	ベスト8
			成年女子	本国体ベスト8	九プロ突破
			少年男子	本国体優勝	九プロ突破
			少年女子	本国体優勝	九プロ突破
28	ラグビー	成年男子→練習会や練習試合を昨年以上に実施する。早い段階でメンバーを確定し、県代表としての意識を高め、初戦突破を目指す。 少年男子→全国選抜大会ベスト8の佐賀工業高校を軸にメンバー選考を行う。夏の強化試合でチーム力を上げ、全国制覇を目指す。	成年男子	出場権獲得	1回戦突破
			少年男子	優勝	出場権獲得
35	アーチェリー	昨年同様に国体での天皇杯得点獲得をを目標に掲げていますが、九州のアーチェリーのレベルは非常に高く、ブロック大会を何とか通過して本国体への出場が最大の目標となっています。選手層としては、これまで高校で活躍して、大学に進学して成長を続ける成年男子、女子。ブロックが4チーム通過の現状からは計算できるとしています。しかし、少数ながら頑張っている少年男女ですが、そのレベルは今後の強化の問題が多いように考えます。これから強化するポイントを絞って集中的に練習強化していきたいです。	成年男子	優勝	本国体入賞
			成年女子	本国体入賞	九州ブロック大会通過（4位以内）
			少年男子	本国体入賞	九州ブロック大会通過（2位以内）
			少年女子	本国体入賞	九州ブロック大会通過（2位以内）
37	ボウリング	成年男女、少年男女を通じ、12名中新人が4名であるため、国体九州ブロックが開催されるまでの間、前九州、西日本の大会で雰囲気慣れさせ、さらには県連大会や県内のトップ選手が参加する強化リーグでの投げ込みと指導を行う。さらには、上記の技術面だけでなく、精神面においても呼吸法、同時投球、投球前のジャンプを行うことにより集中力と足腰の安定を図る訓練を行う。又、選手1人ひとりの強み、弱みを聞き取るにより、それに対応した練習を行う。	成年男子	3位以内を狙う。佐賀県が得意とするポイントの高い団体戦(2チーム・4人チーム)でチーム一丸となって上位に入る。	5位以内での国体九州ブロック大会通過を目指す。2人チームで1組の入賞と団体戦で3位以内に入る。
			成年女子	九州ブロック通過となる4位以内を狙う。	最高目標と同じ4位以内を狙う。
			少年男子	九州ブロック通過となる4位以内を狙う。投球の違う2人の選手がうまくかみ合って、団体戦での上位入賞をする。	最高目標と同じ4位以内を狙う。
			少年女子	九州ブロック通過となる4位以内を狙う。スコアが安定している新人1名の頑張りに期待したい。	最高目標と同じ4位以内を狙う。
38	なぎなた	・成年女子については、大学での競技力向上が大切である。しかし、地元に戻ってきてからの少年との合同練習を徹底したい。又、県外遠征を昨年以上に計画していきたい。 ・少年女子については、単独校での出場が強化の面では望ましい。そのためにも、2校(佐賀東、牛津)のレベルアップを県外遠征によって計画していきたい。	成年女子	本国体ストレート 優勝	本国体8位以内
			少年女子	九州ブロック1位通過本国体優勝	九州ブロック3位通過本国体8位以内
40	ゴルフ	少年男子は、九州ブロック突破を目指す。前年より、レベルアップしている。来年は、佐賀で九州ブロック大会が開催されるため、事前に強化、育成を図る。成年男子は今年、若手が揃った。女子も先ず先ずの布陣で期待が持てる。国体選手については、県内のゴルフクラブいずれでもメンバーフィーでのプレーを認め、強化を図っている。	成年男子	20位	35位
			女子	20位	35位
			少年男子	20位	35位
38	トライアスロン	2016年の岩手国体での正式競技としての実施に向け、ジュニア選手の育成を視野にいれ活動を進める。2010年度については、5月に佐賀県トライアスロン協会主催のジュニア対象練習会を初めて唐津市で実施した。6月にも実施する予定で、今後は定期的な開催を検討したい。 短期的には、千葉国体に向け、強化選手を指定(前年度佐賀県選手権優勝者)、他県で開催される試合への出場を奨励し、優先的な参加推薦を行い、日本選手権クラス以上の大会については、旅費等の補助を目的として、強化費を支給している。 今年度の男子強化指定選手は、ロンドンオリンピック出場を目指し、現在は福岡県のウイングストライアスロンクラブに加入し日々トレーニングに励んでいる。今年度はアンダー23歳の日本代表として、アジア選手権に出場し総合7位と健闘している。男子選手と比べて、選手層の薄い、女子選手の発掘が急務である。	成年男子	入賞	13位(昨年を上回る)
			成年女子	23位(中位を越える)	38位(昨年を上回る)